平成２７年度
修了生による教育評価報告書

平成 28 年 9 月
香川大学大学院地域マネジメント研究科

目次

総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第 1 章　修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要
1．調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2．調査実施期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3．調査対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4．調査の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
5．集計方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第 2 章　調査結果について
1．回答者の属性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

2．分析
1．在学当時の状況について
(1) 在学中の出席状況について（問 1） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
(2) 在学中勉強時間（問 2） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
(3) 仕事で役立ったと思う科目（問 3） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問 4） ・・・・・・・・・ 10
(5) 土曜日の開講について（問 5） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
(6) プロジェクト研究について（問 6） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について（問 7､8） ・・・・ 11
(8) 学部学生の就職について（問 9） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
(9) 自習室、教室の環境について（問 10､11） ・・・・・・・・・・・・・・・ 12
2．修了後の効果について
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事で必要な能力（問 12） ・ 13
(2) 学んだことに満足しているかについて（問 13） ・・・・・・・・・・ 16
(3) 愛着について（問 14） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3．現在の状況について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
(1) 自己研修について（問 16） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
(2) 地域活動について（問 17） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて（問 18, 19） ・・・ 18
(4) 後期（10 月）入学の必要性について（問 20） ・・・・・・・・・・・ 19

3．自由記述のデータ
プロジェクト研究について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
カリキュラム等について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
改善点、要望など ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

総　括

- 平成 27 年度修了生 30 人中 27 人（90%）から回答があった。

- 平成 27 年度修了の 11 期生の属性の特徴は以下の通りである。
  ・20 歳代、30 歳代の若い年齢層が多くなっている。
  ・自宅は 6 割以上、勤務地は 7 割近くが高松市内である。
  ・就業状況は、正規雇用が約 7 割である。
  ・入学時の職種は、公務員（国・地方自治体）が多くなっている。
  ・役職は、若い年齢層が増えたため、主任が多くなっている。

- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 86.3%である。
  前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では 89.0%であった。

- 週当たりの勉強時間は、10.2 時間である。
  前回アンケート調査では、9.92 時間であり、あまり変わりはない。

- 仕事で役立ったと思う科目は、「組織行動論」「人事管理論」と回答した人が多い。
  仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「四国経済事情」「統計分析」と回答した人が多い。

- 土曜の開講は、必要（74.1%）、ある程度必要（22.2%）で合計 96.3%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。
  前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、必要（79.2%）、ある程度必要（20.8%）で合計 100%であった。

- プロジェクト研究については、「満足している」(40.7%)、「ある程度満足している」(29.6%)で合計が 70.3%となり、ある程度の満足度を得ている。
  前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、「満足している」(25.0%)、「ある程度満足している」（45.8%）で合計が 70.8%であった。

- 社会人組織（所属組織）からの支援を受けた人は 36.4%、社会人組織以外（奨学金など）からの支援を受けた人は 4.5%と、あまり多くない。

- 学部からの進学生による、就職についての対応についての満足度は、「ある程度満足している」（40.0%）、「どちらともいえない」（60.0%）である。

- 環境（自習室、教室）については、教室は「満足している」(37.0%)、「ある程度満足している」(55.6%）で合計が 92.6%となり、9 割以上が満足と回答している。
  自習室は「満足している」(48.1%)、「ある程度満足している」(48.1%）で合計が 96.2%となり、9 割以上が満足と回答している。
  前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、教室は「満足している」(33.3%)、「あ

る程度満足している」（54.2%）で合計が 87.5%であった。
自習室は「満足している」（21.7%）、「ある程度満足している」（56.5%）で合計が 78.2%であった。

- 大学院教育で身についた能力は、「意見の違いや立場の違いを理解する力」「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「幅広い知識や教養」と回答した人が多かった。

- 研究科で学んだことについての満足度は高く、「満足している」（56%）、「ある程度満足している」（44%）合計で 100%であった。
前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）では、「満足している」（45.8%）、「ある程度満足している」（41.7%）と、合計 87.5%が満足と回答している。

- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」（48%）、「ある程度ある」（44%）で「愛着がある」という回答が 92%であり、前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）の 79.2%より愛着を持つ人が増えた。

- 講演会、シンポジウムに参加希望が多く、「一般公開」がよいとする意見が多い。

- 後期入学が必要という回答は、「非常に必要」（11%）、「ある程度必要」（22%）合計 33%であり、「どちらともいえない」（33%）、「あまり必要でない」（33%）合計 66%となり 7 割近い人が後期入学はあまり必要ではないと回答している。

第１章　修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

１．調査の目的

この度､本研究科の平成 27 年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

２．調査実施日

平成 28 年 3 月 24 日（木）修了後

３．調査対象

（１）調査対象と調査方法

調査対象は、平成 27 年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

（２）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、平成 27 年度修了生 30 人中 27 人から回答があり、回答率は 90%であった。

４．調査の内容

アンケート調査の質問項目は､Ⅰ.在学当時の状況について､Ⅱ.在学当時の支援関係について、Ⅲ.修了後の効果について、Ⅳ.現在の状況について、Ⅴ.香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ.あなた自身について、の 6 項目についてである。詳しい内容は第３章の資料編を参照願いたい。

５．集計方法

集計方法は、各問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第１位未満を四捨五入）を%で表示した。なお、回答にあたって、未記入（無回答）と答えたものは、集計数に含めないこととした。そのため、問ごとに集計総数が異なっている。

なお、各問ごとの集計結果は、第３章資料編に綴っているので、参照願いたい。

第２章　調査結果について

１．回答者の属性

問 21～問 28 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。集計結果については、前述したとおり無回答を除いているため、集計総数が問ごとに異なっているのでご注意願いたい。

（１）入学時の年齢（問 21）

入学時の年齢については、30 歳代（46.2%）が最も高く、以下、20 代（38.5%）、40 代（7.7%）と 50 代（7.7%）と続いている（図 1 を参照）。

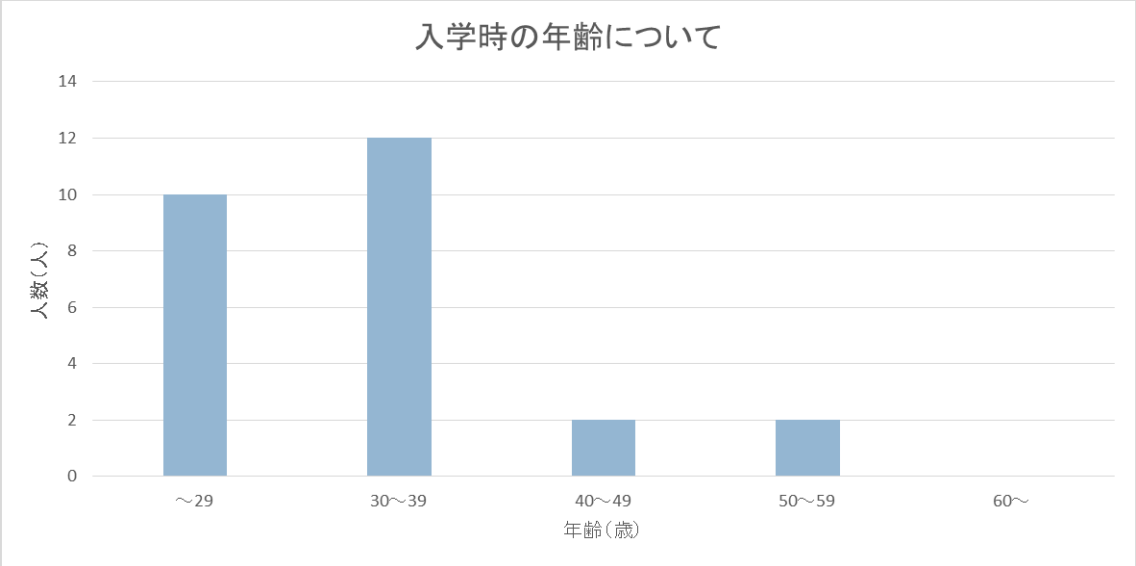

図 1　入学時の年齢

（２）入学時の自宅所在地及び勤務地（問 22）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 61.5%（16 人）で、高松市以外の香川県 23.0%（6 人）、岡山県 15.3%（4 人）となっている。

勤務地は、高松市 66.7%（14 人）で、高松市以外の香川県 23.7%（5 人）、岡山県 4.8%（1 人）、大阪府 4.8%（1 人）となっている。

（３）入学時の就業状況、職種、役職について（問 23,24,25）

問 23 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 66.7%（18 人）、非正規雇用が 14.8%（4 人）、働いていないは 18.5%（5 人）である。

職種は、その他 23.8%（5 人）が一番多く、公務員（国・地方自治体）19.0%（4 人）、商社・金融関係、販売・サービス関係 14.3%（3 人）、情報・通信関係 9.5%（2 人）、食品・化学関係、マスコミ・出版関係、保健・衛生・医療関係 4.8%（1 人）と続く（図 2 を参照）。その他の内訳として、運輸関係が 3 人、福祉関係が 1 人、不明が 1 名であった。

役職は、主任 25.0%（4 人）が一番多く、主事 12.5%（2 名）、委託職員、課員、課長、支店長代理、社長、主査取締役、小学校教諭、専務取締役、代表取締役 6.3%（1 人）と続く。

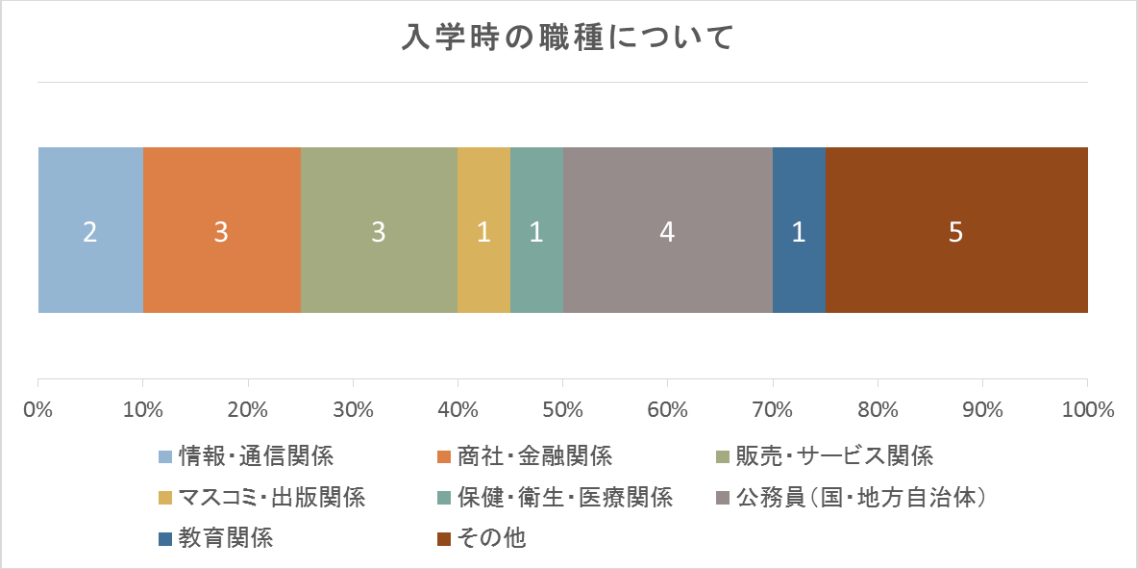

図 2．入学時の職種について

（４）現在の就業状況、職種について（問 26, 27, 28）

問 26 は本研究科の修了生が現在、正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 77.3%（17 人）、非正規雇用が 4.5%（1 人）である。

職種は、販売・サービス関係 33.3%（6 人）が一番多く、続いて、建設・機械関係 16.7%（3 人）が多く、情報・通信関係、保健・衛生・医療関係 11.1%（2 人）、食品・化学関係、商社・金融関係、公務員 5.6%（1 人）（図 3 を参照）。

役職は、一般社員 21.4%（3 人）が一番多かった。次に、代表取締役 14.3%（2 人）と続いた。他に、課長、主任、代表社員、担当、取締役、部長、役員、工事部事務 7.1%（1 人）と続いた。

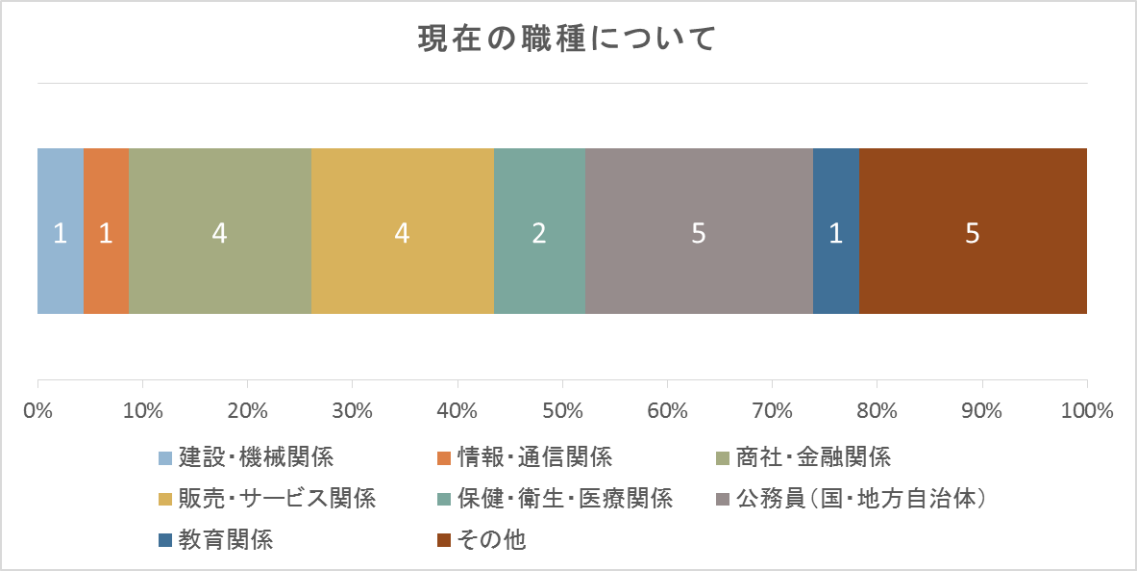

図 3．現在の職種について

２．分析

１．在学当時の状況について

（１）在学中の出席状況について（問 1）

在学中にどれだけ出席できたかを見てみる。全ての授業に出席した場合を 100%とし回答してもらったところ、平均が 86.3%となった（図 4 を参照）。

前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、98.0%であった。

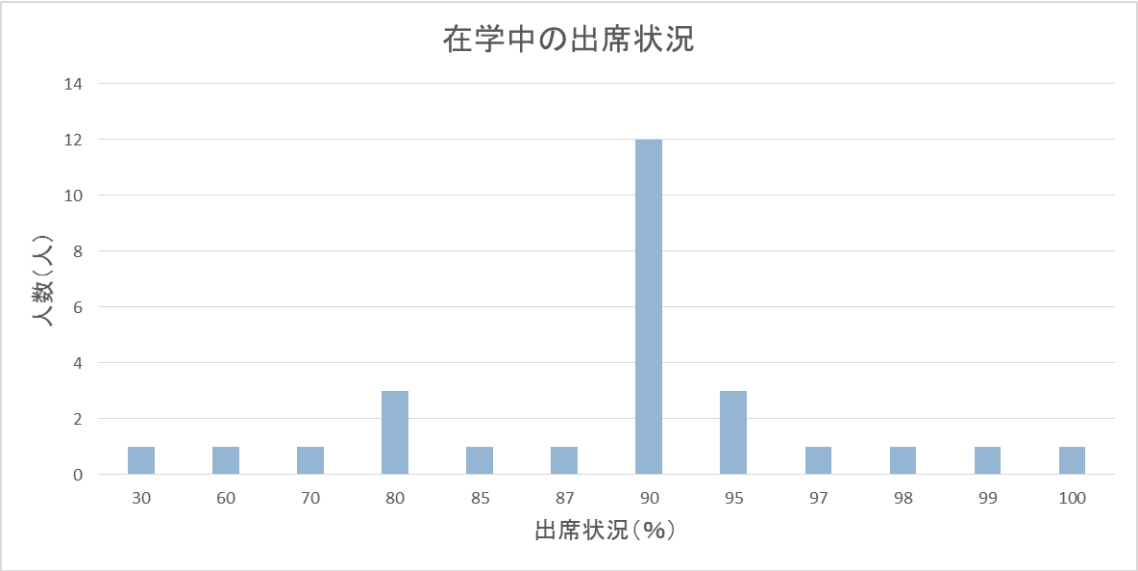

図 4．在学中出席状況

（２）在学中勉強時間（問 2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見てみると、平均、10.2 時間となる（図 5 を参照）。

前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、9.92 時間であった。

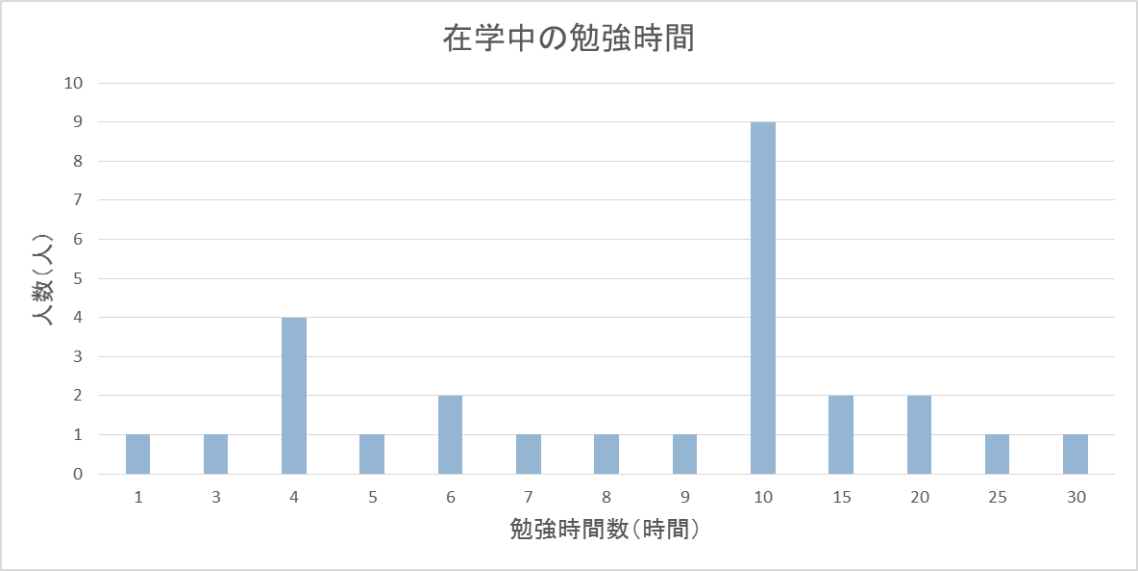

図 5．在学中勉強時間

（３）仕事で役立ったと思う科目（問 3）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。最大 3 つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 1. 仕事の上で役立ったと思う科目

組織行動論	9	15.0%
人事管理論	5	8.3%
プロジェクト演習	4	6.7%
クリエイティビティと地域活性化	3	5.0%
マーケティング戦略	3	5.0%
経営リスク・マネジメント	3	5.0%
アートと地域活性化	2	3.3%
ゲーム理論	2	3.3%
ファイナンス・マネジメント	2	3.3%
マーケティング・リサーチ	2	3.3%
マネジメント・アカウンティング	2	3.3%
環境経営	2	3.3%
経営管理論	2	3.3%
自治体財政政策	2	3.3%
地域公共政策	2	3.3%

統計分析	2	3.3%
アカウンティング	1	1.7%
オリーブ事業化マネジメント	1	1.7%
プロジェクト・マネジメント	1	1.7%
マーケティング	1	1.7%
マーケティング・マネジメント	1	1.7%
マネジメント・システム	1	1.7%
マネジメント戦略	1	1.7%
意思決定分析	1	1.7%
四国経済事情	1	1.7%
事業創造論	1	1.7%
実践型インターンシップ	1	1.7%
実践型クリエイティブワーク演習	1	1.7%
社会起業家論	1	1.7%

（４）仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問 4）

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。この問も最大３つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

四国経済事情	8	16.0%
統計分析	4	8.0%
マーケティング	3	6.0%
経営管理論	3	6.0%
組織行動論	3	6.0%
オリーブ事業化マネジメント	2	4.0%
マーケティング・リサーチ	2	4.0%
マーケティング戦略	2	4.0%
産業クラスター論	2	4.0%
四国経済事情（地域活性化と地域資源）	2	4.0%
社会起業家論	2	4.0%
人事管理論	2	4.0%
アカウンティング	1	2.0%
イノベーション・マネジメント	1	2.0%

ゲーム理論	1	2.0%
デザイン・マネジメント	1	2.0%
ファイナンス・マネジメント	1	2.0%
マーケティング・マネジメント	1	2.0%
マネジメントシステム	1	2.0%
自治体財政政策	1	2.0%
実践型地域活性化演習	1	2.0%
新産業政策	1	2.0%
地域活性化と観光創造	1	2.0%
地域経済分析	1	2.0%
地域公共政策	1	2.0%
都市開発論	1	2.0%
費用便益分析	1	2.0%

（５）土曜日の開講について（問 5）

社会人学生が多いこともあり、現在は土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる（図 6 を参照）。「必要」（74.1%）「ある程度必要」（22.2%）合計 96.3%となった。

前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）では、「必要」（79.2%）「ある程度必要」（20.8%）合計 100%であった。

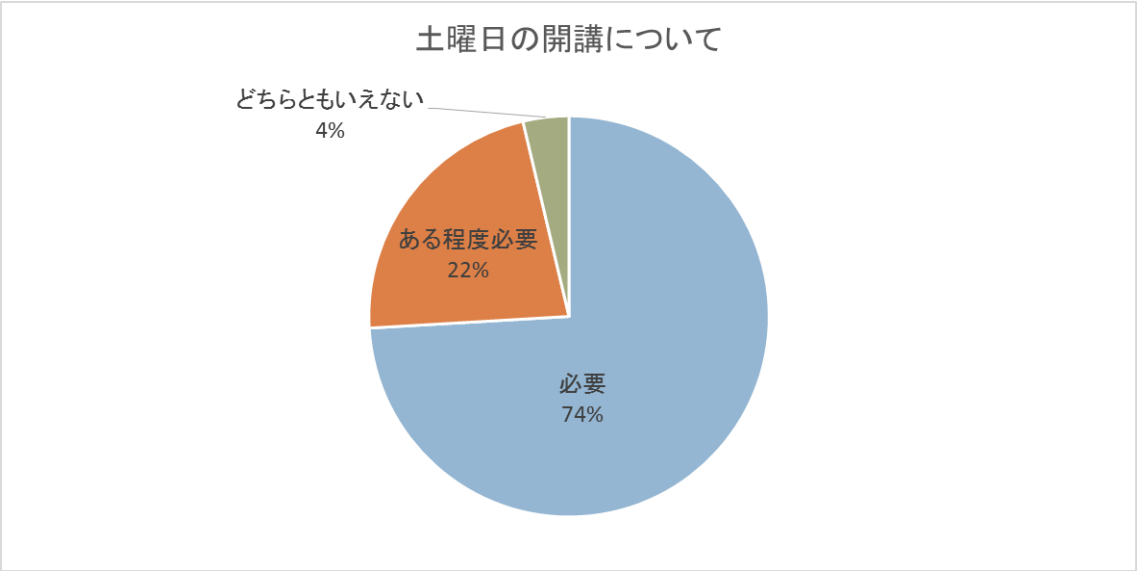

図 6. 土曜日の開講について

（6）プロジェクト研究について（問 6）

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している」（40.7%）、「ある程度満足している」（29.6%）で合計 70.3%となった（図 7 を参照）。

前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）では、「満足している」（25.0%）および「ある程度満足している」（45.8%）で合計 70.8%であった。

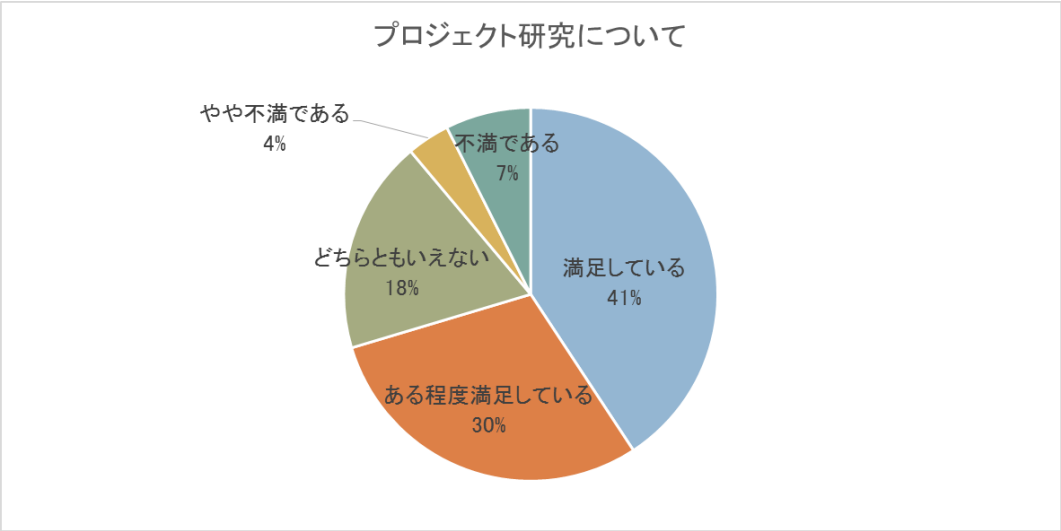

図 7. プロジェクト研究について

（７）社会人組織、社会人組織以外からの支援について（問 7､8）

社会人学生に、社会人組織（所属組織）からの支援ならびに社会人組織以外（奨学金など）からの支援について見てみると、以下のような状況である（図 8 を参照）。

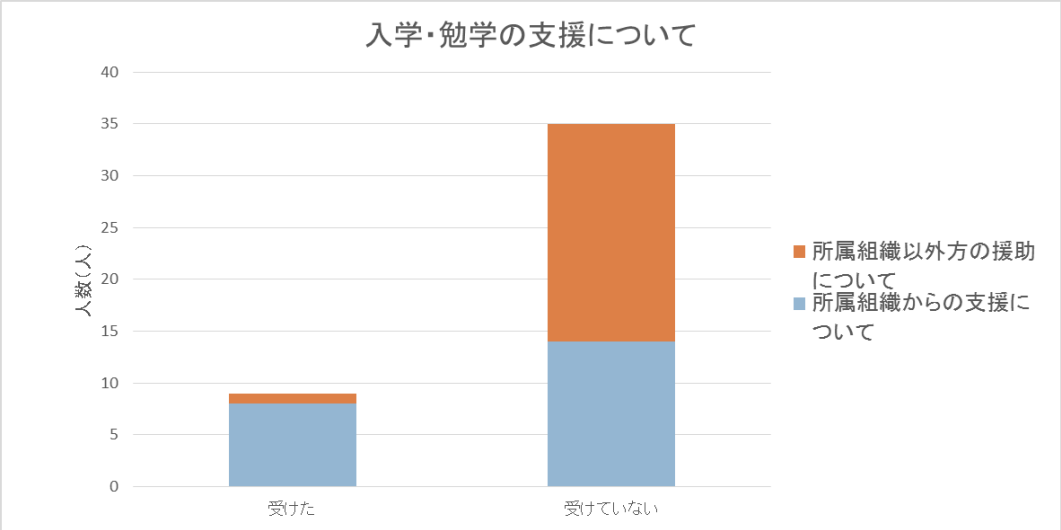

図 8．入学・勉学支援について

（８）学部学生の就職について（問 9）

学部からの進学生に、就職についての対応についての満足度を見てみることにする（図 9 を参照）。

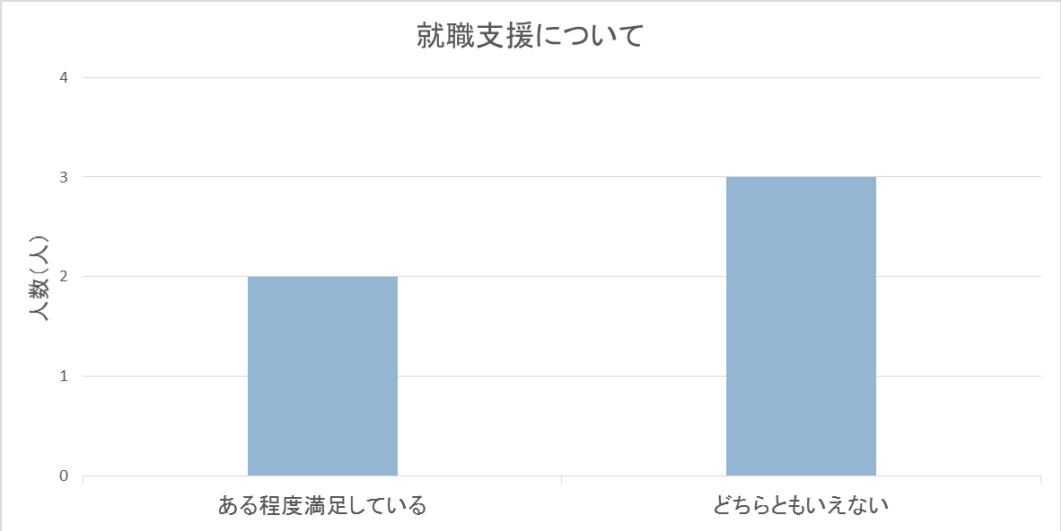

図 9．就職支援について

（９）自習室、教室の環境について（問 10､11）

自習室と教室の環境についての満足度を見てみることにすると、教室は「満足している」（37.0%）、「ある程度満足している」（55.6%）で合計で 92.6%が満足と回答している。自習室は「満足している」（48.1%）、「ある程度満足している」（48.1%）で合計で 96.3%が満足と回答している（図 10 を参照）。

前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）では、教室は合計 87.5%が満足、自習室は合計 78.2%が満足と回答しているので、自習室、教室の満足度が上がった。

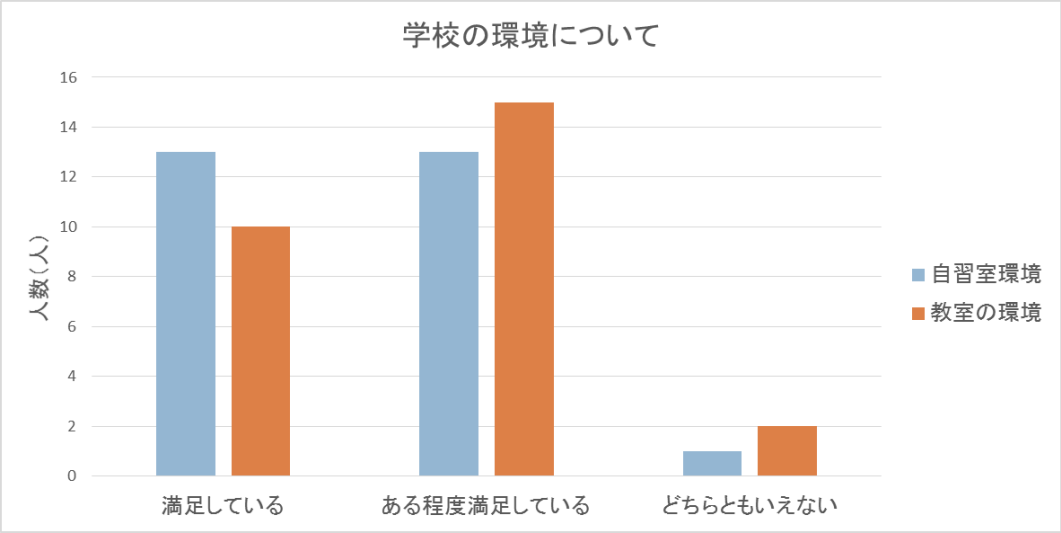

図 10．学校の環境について

２．修了後の効果について

（１）大学院教育で身についた能力と現在の仕事で必要な能力（問 12）

ここでは、19 の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身についていない」「身についていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の 5 段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身についていない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階に（図 11-1 を参照）、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階で表示した（図 11-2 を参照）。

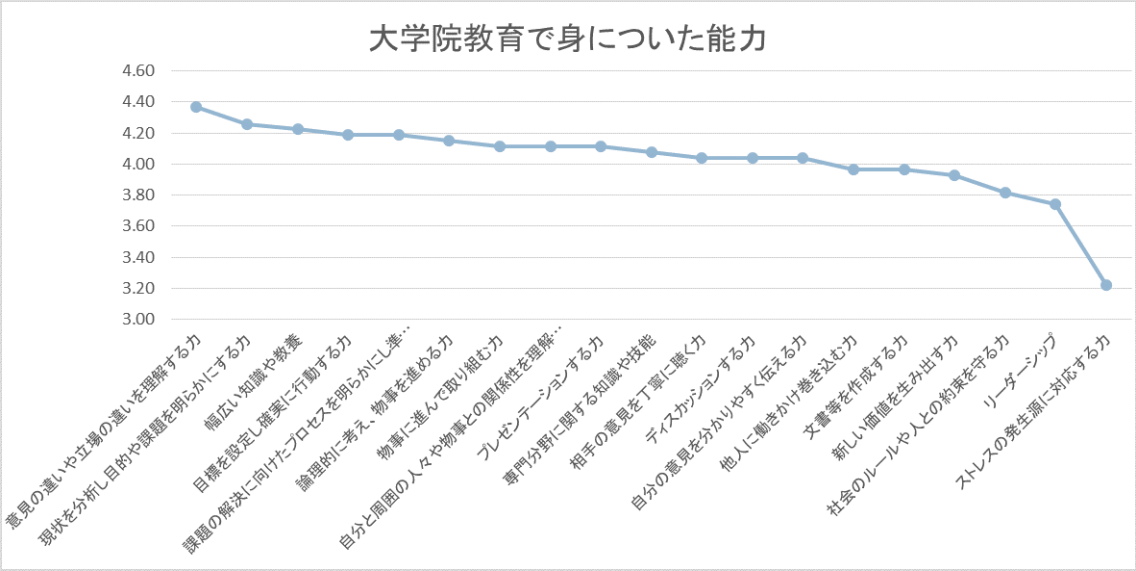

図 11-1．大学院教育で身についた能力

表 3　大学院教育で身に付いた能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.37	0.74
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.26	0.71
⑬	幅広い知識や教養	4.22	0.80
③	目標を設定し確実に行動する力	4.19	0.83
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.19	0.74
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.15	0.60
①	物事に進んで取り組む力	4.11	0.93
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.11	0.70
⑱	プレゼンテーションする力	4.11	0.80
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.07	0.73
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.04	0.81
⑰	ディスカッションする力	4.04	0.76
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.04	0.76
②	他人に働きかけ巻き込む力	3.96	0.94
⑯	文書等を作成する力	3.96	0.71
⑥	新しい価値を生み出す力	3.93	0.83
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	3.81	0.83
⑲	リーダーシップ	3.74	0.86
⑫	ストレスの発生源に対応する力	3.22	0.89

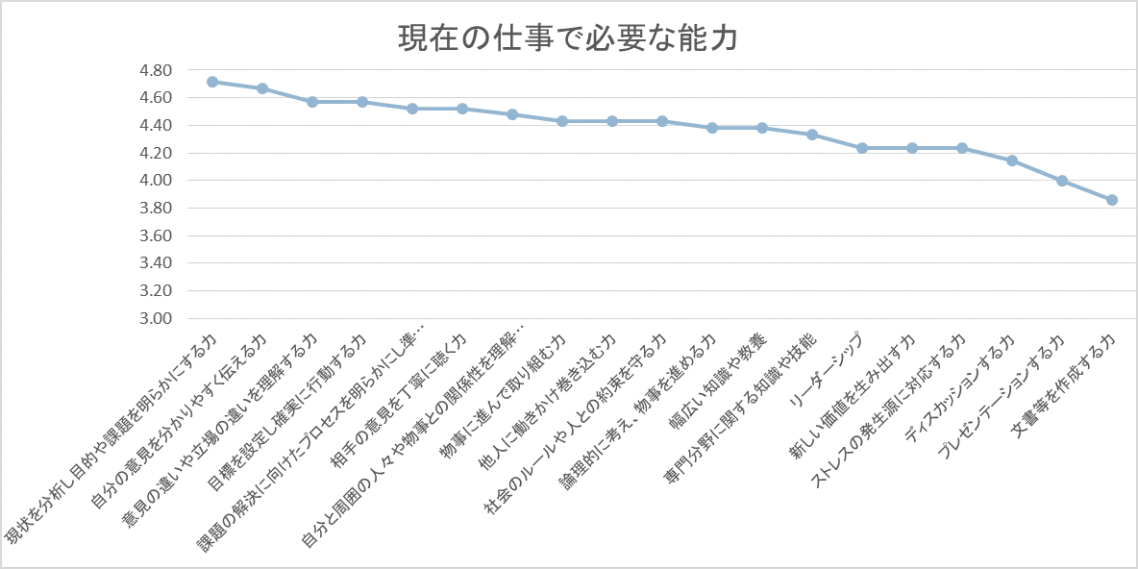

図 11-2．現在の仕事で必要な能力

表４　現在の仕事で必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.71	0.56
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.67	0.58
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.57	0.60
③	目標を設定し確実に行動する力	4.57	0.93
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.52	0.98
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.52	0.81
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.48	0.60
①	物事に進んで取り組む力	4.43	0.68
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.43	0.68
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.43	1.03
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.38	0.74
⑬	幅広い知識や教養	4.38	0.86
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.33	0.73
⑲	リーダーシップ	4.24	1.14
⑥	新しい価値を生み出す力	4.24	1.04
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.24	0.70
⑰	ディスカッションする力	4.14	1.11
⑱	プレゼンテーションする力	4.00	1.18
⑯	文書等を作成する力	3.86	2.15

表 5「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事で必要な能力	順位差 ※
①	物事に進んで取り組む力	7	8	1
②	他人に働きかけ巻き込む力	14	9	-5
③	目標を設定し確実に行動する力	4	4	0
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	2	1	-1
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	5	5	0
⑥	新しい価値を生み出す力	16	15	-1
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	13	2	-11
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	11	6	-5
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	1	3	2
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	8	7	-1
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	17	10	-7
⑫	ストレスの発生源に対応する力	19	16	-3
⑬	幅広い知識や教養	3	12	9
⑭	専門分野に関する知識や技能	10	13	3
⑮	論理的に考え、物事を進める力	6	11	5
⑯	文書等を作成する力	15	19	4
⑰	ディスカッションする力	12	17	5
⑱	プレゼンテーションする力	9	18	9
⑲	リーダーシップ	18	14	-4

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）-大学院教育で身についた能力（順位）

（2）学んだことに満足しているかについて（問 13）

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると、「満足している」（55.6%）、「ある程度満足している」（44.4%）合計が 100%であり、全員が満足したと回答した（図 12 を参照）。

前回アンケート調査（平成 26 年度修了生対象）では、「満足している」（46.0%）、「ある程度満足している」（42.0%）合計が 88.0%であった。

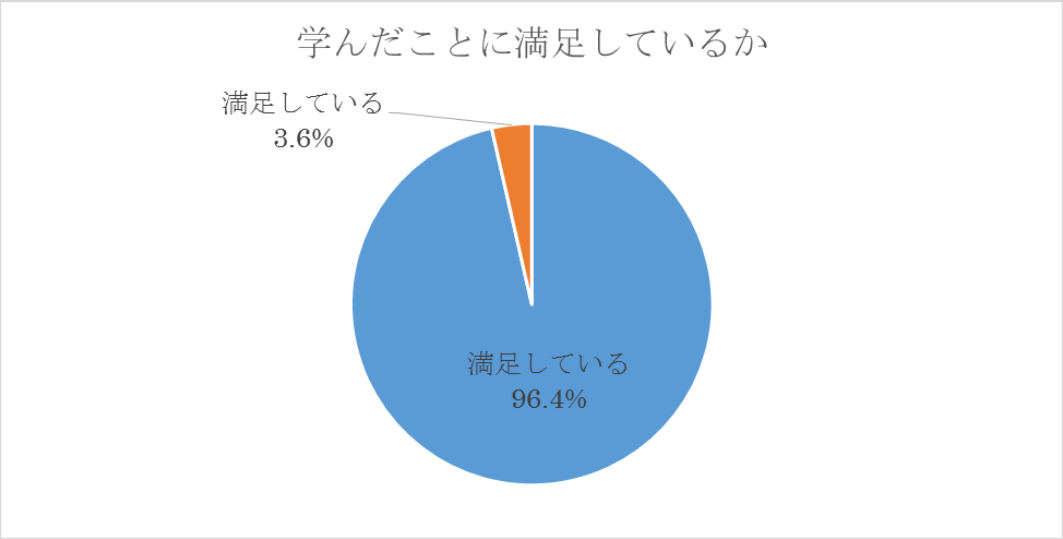

図 12. 学んだことに満足しているか

（３）愛着について（問 14）

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」(48.1%)、「ある程度ある」(44.4%)で合計 92.6%となり、9 割以上が「愛着がある」と回答した（図 13 を参照）。前回アンケート調査(平成 26 年度修了生対象)では、合計が 79.2%であった。

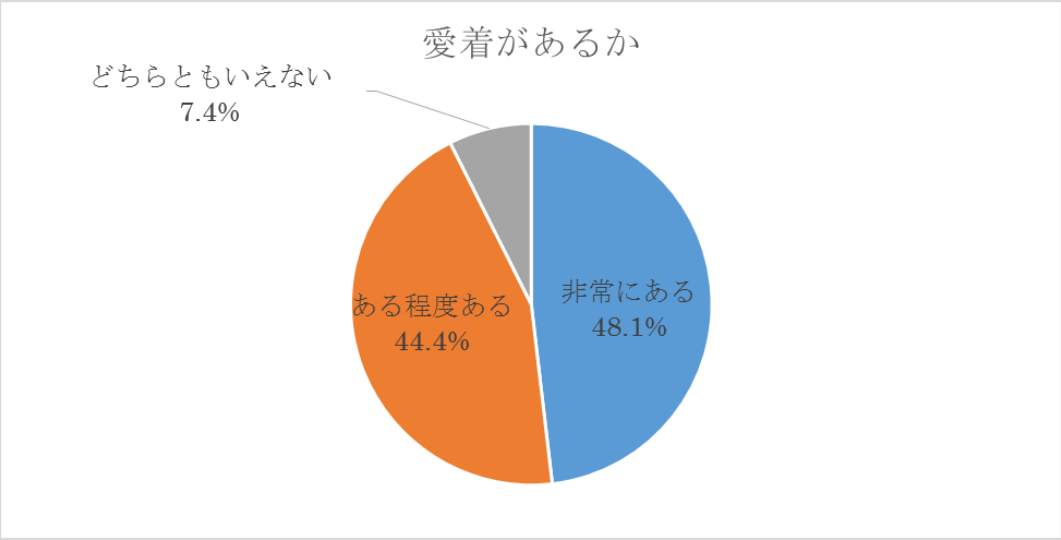

図 13．愛着があるか

３．現在の状況について

（１）自己研修について（問 16）

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人（66.7%）と行っていない人（33.3%）となった（図 14 を参照）。

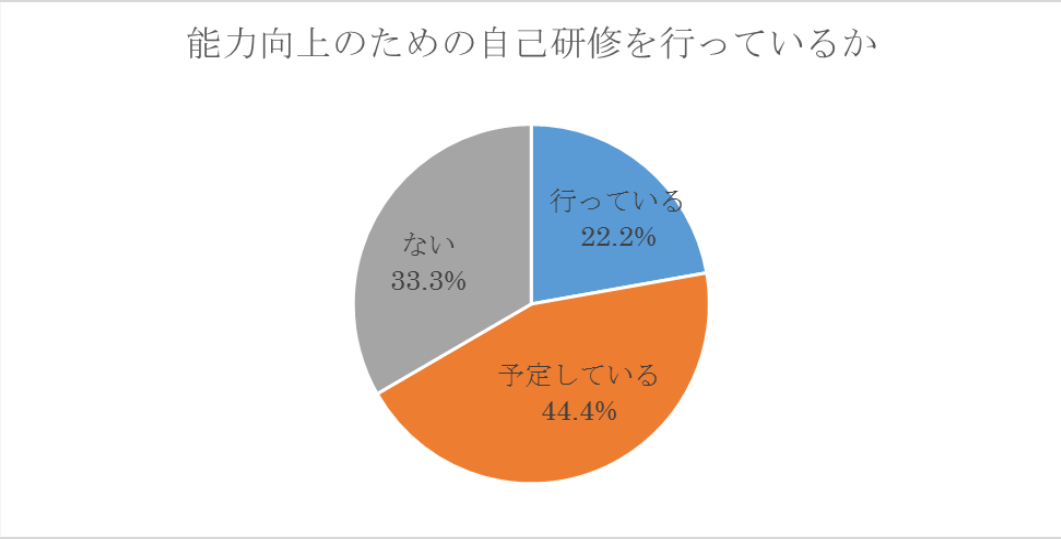

図 14．能力向上のための自己研修を行っているか

（２）地域活動について（問 17）

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人（40.7%）と行っていない人（59.3%）となった（図 15 を参照）。

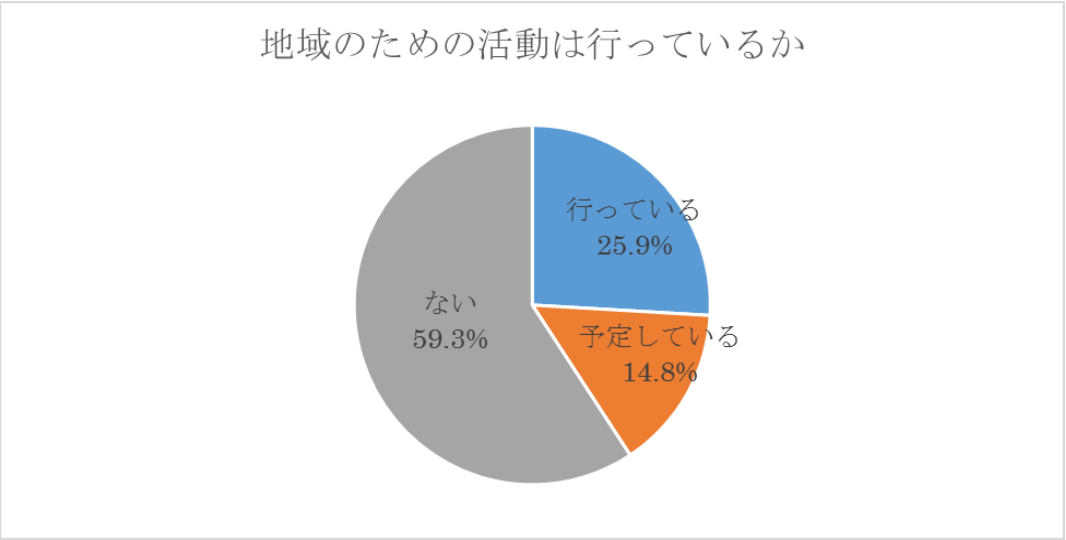

図 15．地域の為の活動を行っているか

（３）研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて（問 18, 19）

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、100%が参加を希望している（図 16 を参照）。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が 81.5%、「在学生・修了生のみ対象」が 18.5%となった（図 17 を参照）。

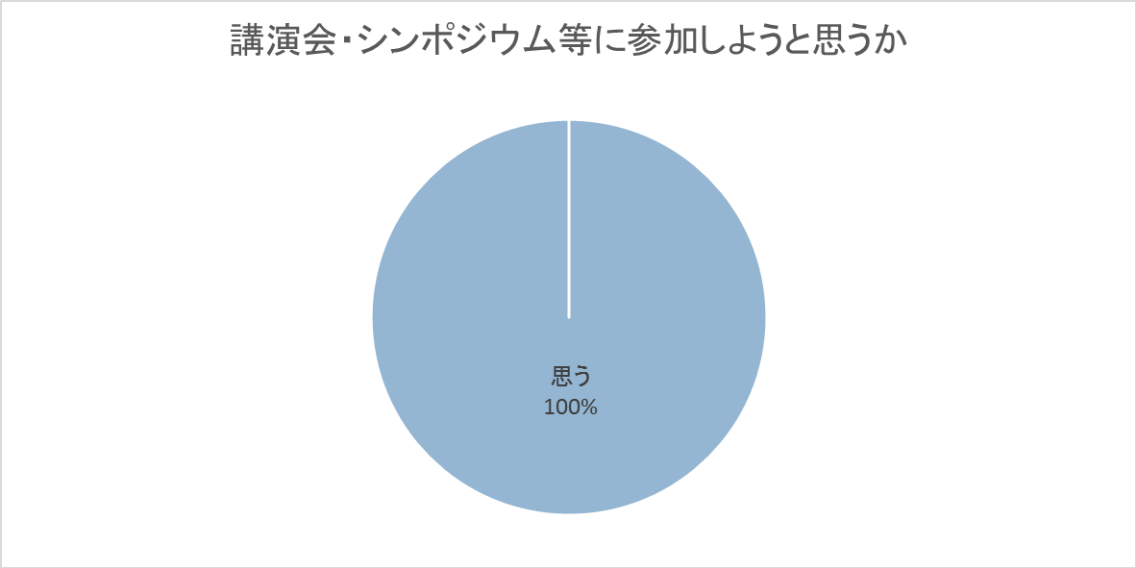

図 16．講演会・シンポジウムに参加したいか

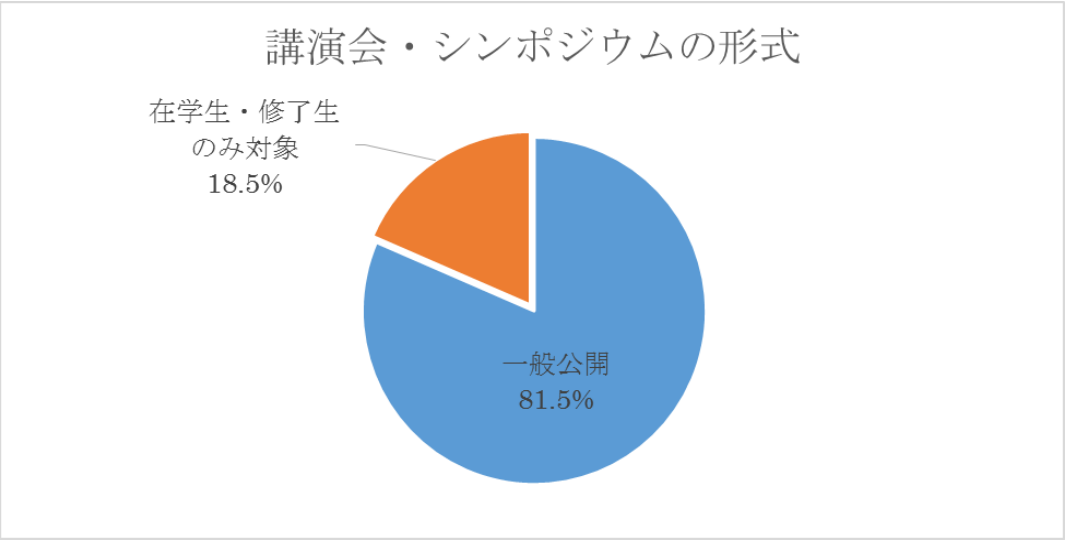

図 17．講演会・シンポジウムの形式について

（４）後期（10 月）入学の必要性について（問 20）

研究科に、後期（10 月）入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」（11.1%）、「ある程度必要」（22.2%）となった（図 18 を参照）。

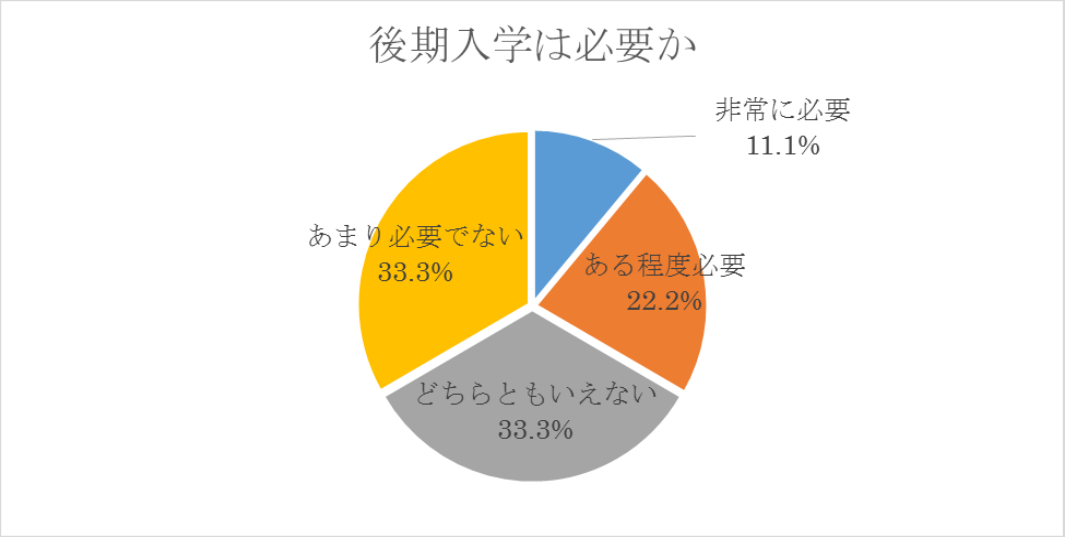

図 18．後期入学の必要性について

３．自由記述のデータ

問６　プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

・社会人にとって実地で研究できることはありがたい
・頑張ったから
・グループによって進め方に違いがある
・実践は大事だと思うが、大学本来の強みである最新の理論や科学的知見の裏付けのあるものであってほしい。また、それを掘り下げることも必要だと思います
・研究をやりとげられたから。研究のために熱心な指導をいただいたから
・先生方のサポート
・進め方やテーマの選定、実現可能性を判断する材料をもたないまま始めてしまった。担当教員の専門分野と選択テーマの一致度によって仕上がりが大きく異なる
・もっと時間をかけてやってみたかった
・もう少し研究にあてられる時間がほしかった
・担当教員と密接にコミュニケーションを行い、知識や理解を深めた
・無事にやり終えられたことは良かったが、ご指導いただいたことを反映しきれなかった自分の未熟さが反省点
・少し内向きの感がある。研究のための研究になっているような気がする

問 15．地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

・大学の研究成果を事業化することに関する授業を四国 TLO と連携することで行ってほしい
・取りたい授業がかぶってとれないときがある
・四国経済事情のように、必修でかつ１コマしかない授業は７限に設定されていると出席しやすいと思います
・大学がすごく楽しかった。ちゃんとした社会人になったら、また入学したいと思うほどに、博士課程があればまた帰ってくるかもしれない
・もっと勉強したかった
・フィールドワークを増やしてほしかった
・福祉関係の専門職及び専門者が増えているので、その関係講義があるといいと思う

Ｖ．香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方が良いと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

・研究業績
・この学科をもっと広く認知させる方法があれば良いと思う（私も修了生の方から紹介されるまで存在も知らなかった）
・基礎部分が多く、実践（職場）での活用方法が想像しにくい